
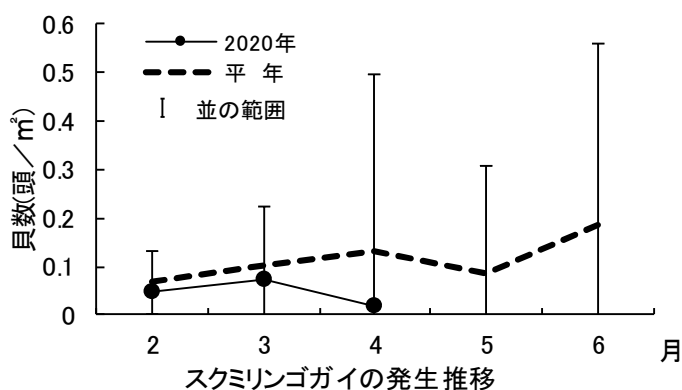


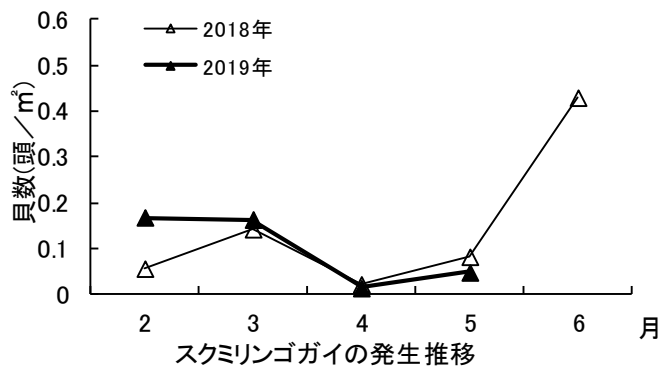
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① スクミリンゴガイ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



発生ほ場率 : 25.0% (平年 : 17.9%)

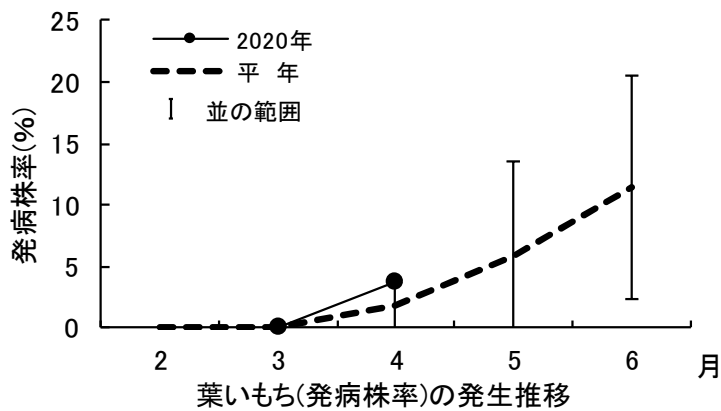
防除のポイント

- ・ 次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・ 畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

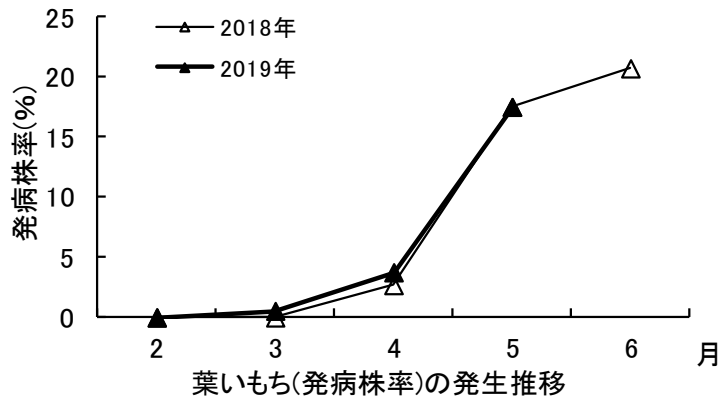
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	② 葉いもち病		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率 : 62.5% (平年 : 22.0%)

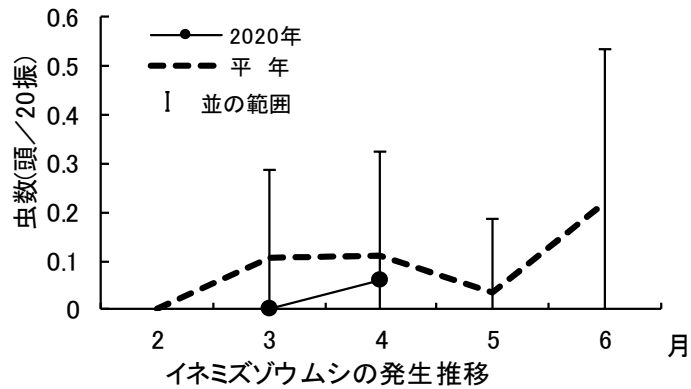
防除のポイント

- ・窒素肥料の過用により徒長した場合や葉色が濃い場合に発生が多いため、これらのほ場では施肥量を減らすか、ケイ酸資材の施用を行う。
- ・穂いもち病への移行を防ぐため、発生を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- ・発生の多い地域では、共同防除を行う。
- ・収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

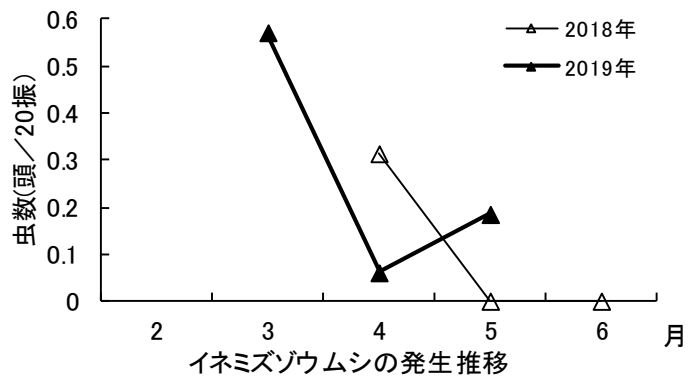
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	③ イネミズゾウムシ		
予報	5 月の発生量 (平年比)	並	
	4 月からの増減傾向	↘	
予報の根拠	4 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



発生ほ場率：6.3% (平年8.5%)

防除のポイント

- ・越冬成虫は3月中下旬頃に水田へ飛来し、イネの葉脈に沿ってすじ状に食害する。その後水面下の葉鞘に産卵し、ふ化した幼虫は土に潜り根を加害するため、被害が大きい場合は欠株や生育異常を引き起こす。
- ・防除薬剤は、育苗時の箱施用が効果的である。
- ・成虫密度が高い場合は、定植1か月以内に本田防除を行う。
- ・ほ場周辺のイネ科雑草は発生源となるので、除草を徹底する。